

## 第15回愛媛県作業療法学会



## 深めよう、広げよう、作業療法の技術！！ -作業療法の技術とは-

Hiroshi Yamane ; OTR, PhD  
Human Health Science  
Graduate School of Medicine Kyoto University

作業療法の知識や技術は求められ  
作業療法士は淘汰される時代  
二〇一五年  
ひとつの区切りのなかで迎える  
あらたな一步  
あなたのあたらしい旬を活かそう



深めよう、広げよう、

作業療法の技術 !!

作業療法の技術は

普遍を活かし 今を活かし

ひとを活かす

作業療法は料理のように

生きるために誰もが必要とするもの

その味は

母の味 ふるきとの味 出会いの味

作業療法士は求められる味を料る



特別なものと思いませんか  
作業療法の技術

作業療法の技術はすべて生活行為の中に なぜ？

そして深め広げるのは？

作業療法の感性 OT mind & sense

作業療法の技 OT art & technique

その上に知識や技術が生きるのです



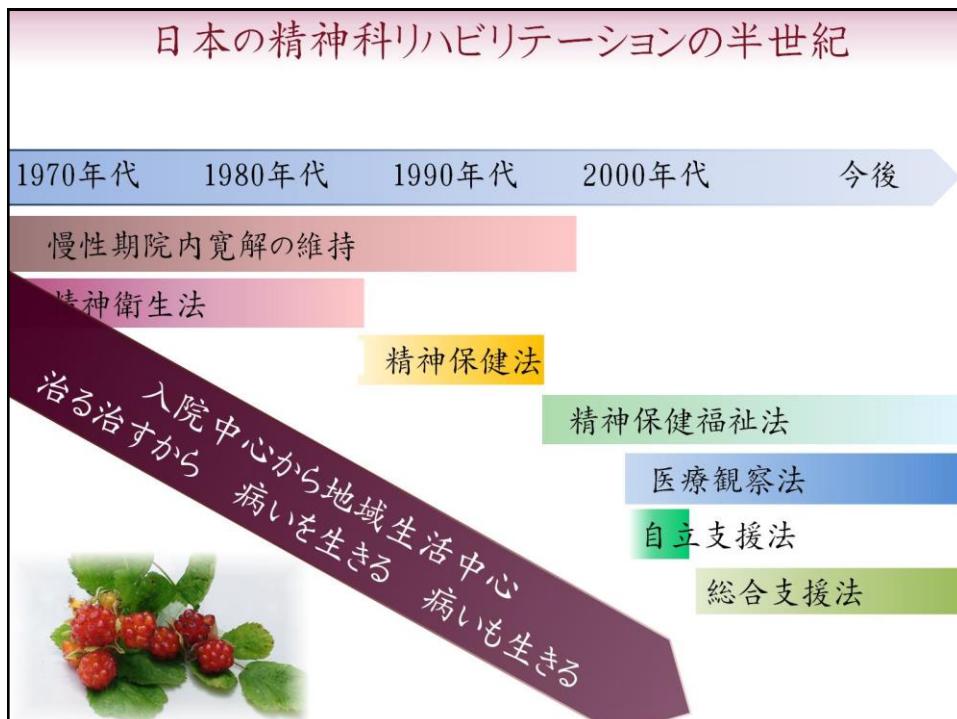
## 特別なものと思つていませんか 作業療法の技術

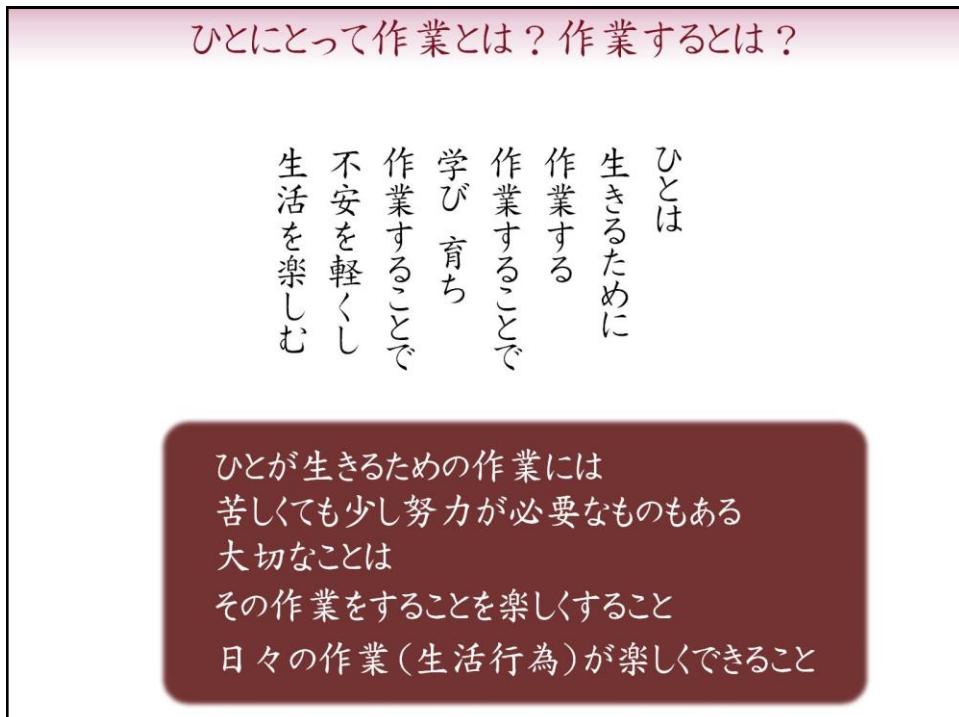
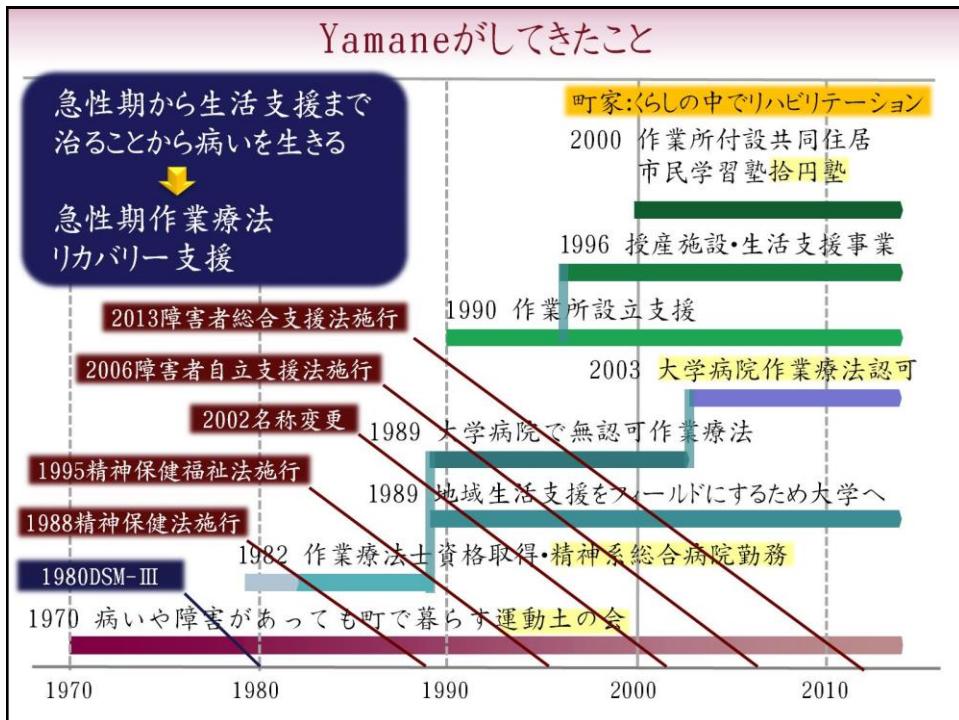
OTとしての基盤(感性や技)のない  
知識 knowledge や方法 how-to は行き詰まる  
OTの原点をしっかり見なおしてみる

ひとにとて作業とは？ 作業をするとは？  
作業療法とは何か？  
作業療法にとって作業とは？  
作業療法の対象は？ なにを目的に？  
作業療法の構造は？ その機序は？  
もちいる理論やモデルは？  
その理論やモデルの適応となる対象は？



作業療法の普遍と今を見るために  
振り返つてみる  
日本のリハビリテーションの半世紀  
作業療法はその普遍の機能を  
その時代の今に応じて活かしてきた





## ひとにとって作業とは？作業するとは？

作業療法でもちいる作業は  
食事、入浴、整容、散歩、買い物、交流など  
日常生活に関するものをまず  
そして仕事、余暇など  
生活を豊かにする作業へ



作業をもちいるには  
まず作業療法の機能を知り  
作業をすることが意味ある体験として残る関わり  
作業を生かすことばとことばを生かす作業が必要

## 作業療法とは？

**特性** 対象の状態とニーズに応じて作業や構造を組み替える

**役割** 生活機能評価（心身機能、活動状態、生活環境、他）

生活支援機能（機能障害の軽減、リハビリテーション、生活技能の習得汎化  
リカバリー支援）→ 社会脳の働きup

**機能** ことばと作業により脳機能を糺し、再学習

具体的な体験による心身機能の維持・回復自己認識と行動変容

**手段** ひとが生活するうえでおこなう生活行為

**領域** 医療、保健、福祉、教育、就労、他

ストレンゲスモデルに基づき      具体的な生活行為を通して  
個々の生活機能を評価し      急性期はリハビリテーション  
回復期は生活とリカバリー支援 → 社会脳の働きup

## 作業療法における作業の意義

作業療法における作業の意義は  
作業をすることではない

治療者とクライエントが作業を介して関わる。そのプロセスを経て得られるクライエントの生活行為における満足感や心地よさといった感覚的变化、それこそが作業療法における作業の意義

その作業療法は、作業(生活行為)を介した  
それこそが作業療法における「かかわりのコツ」  
ひととひととのかかわり

## 作業療法治療構造

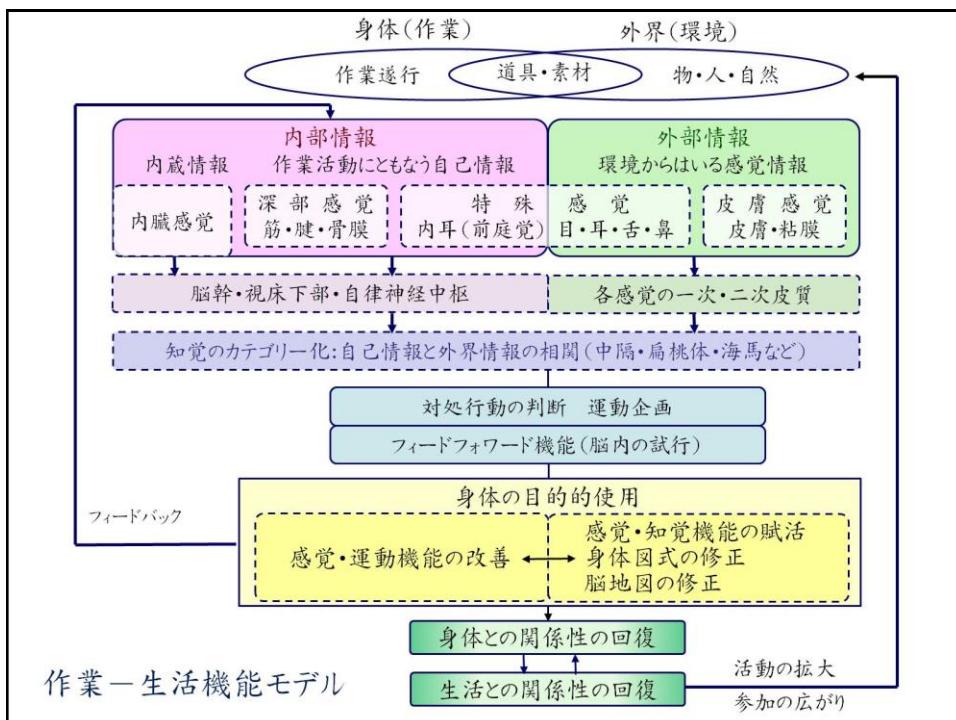
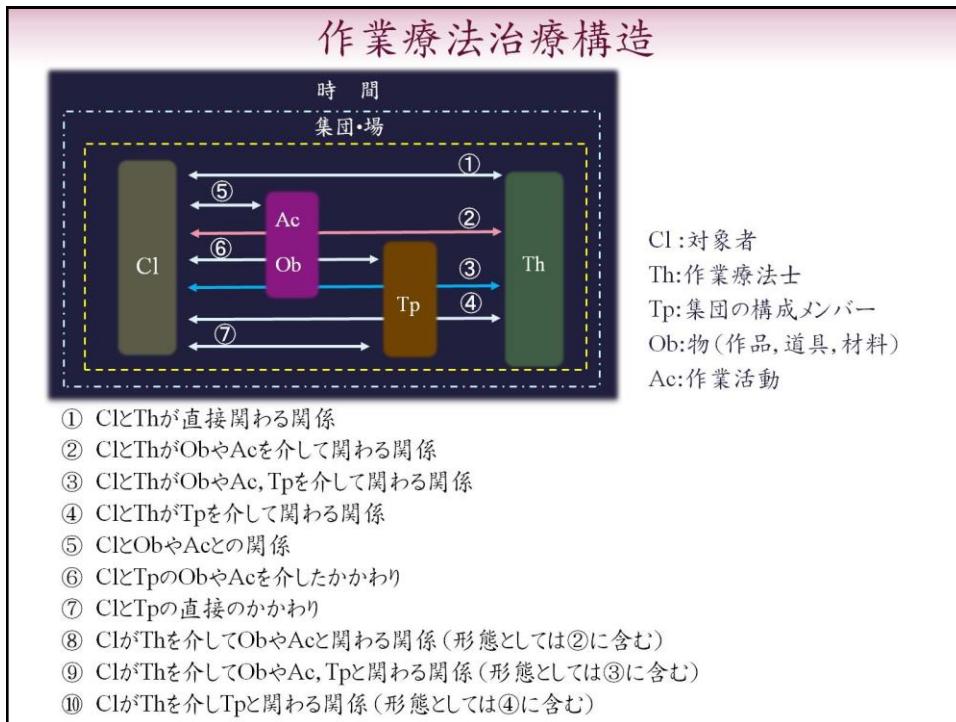


介入効果は、働きかける要素と働きかけられる要素の相互作用による。何がどのように作用するか予測して介入計画を立て、介入効果の原因を知るために治療構造の把握が必要。

### 作業療法の治療要素

Cl:対象者 Th:作業療法士 Tp:集団の構成メンバー

Ob:物(作品,道具,材料) Ac:作業活動



## もちいる理論やモデルは？その適応対象は？

理論やモデルは 何をもちいてもよい  
自分が 分かるものをもちいればよい  
何をもちいても 目的と結果を  
主体となる対象者 共にたずさわる人たち  
だれにもわかる  
普通の言葉で伝えられればよい  
リハビリテーションの実践の場は  
特定の理論や技法を実践する場ではなく  
対象者の生活上の問題を解決する場  
対象者の問題を解決するために  
必要な理論や技法を 柔軟に選択し  
臨機応変に用いる姿勢が求められる

## もちいる理論やモデルは？その適応対象は？

理論を生んだ社会的背景を知る  
対象と目的を確認  
学問的背景を調べる  
当てはめる対象と文化との適合性を検討



それを忘れれば理論の落とし穴



## 深め、広げる、作業療法の技術 いろいろ

失敗しないことより失敗に終わらせない工夫  
できないことをできないままにしない  
配慮はしても遠慮はしない  
作業を活かすことば、ことばを活かす作業  
ことばで括る 適切な知覚のカテゴリー化  
ことばを物として手渡す  
観せて待つ



## 何を深め、何を広げるか、 作業療法の技術

こんな工夫をしています

たとえば

「何もできない、でも何かしないと落ち着かない」  
「なにもする気がしない」という人に

たとえば「何もできない、でも何かしないと落ち着かない」



ピンポン球大の粘土の塊  
「何も作らなくていいので、この粘土をできるだけ薄くおなじ厚さになるようにしてみましょう」

#### 特定の脳機能課題

- ・新しい知識や技術、作業遂行時に判断を要さない
- ・手順が明確
- ・適度な繰り返しとリズム



指先で粘土を摘む(単純な動作の繰り返し)  
粘土を薄くおなじ厚さにする(特定の脳機能課題)  
手指の屈伸にともなう深部覚、触覚からの感覚(身体の使用に伴う現実的感覚刺激)に意識が向けられる



自分の身体から生じる現実の感覚が脳にフィードバックされ、運動企画が見直され手指の動きが修正される  
脳はこの脳機能課題をするために役割が生まれ迷走が止まる



作品を作るためではない  
作業の結果としてできたもの  
素焼きにし、釉をかけて焼く

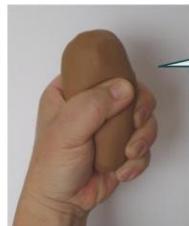
離人感があるので何もせずに  
休みますといっていた少年に  
ある脳機能課題を



## たとえば「何もする気がしない、したくない」



手で一握りできるくらいの粘土を手渡し  
粘土の片方が握った親指と人差し指から  
2~3cm頭が出るようにします



ギューッと握ってもらいます



粘土をり回しながら正面を決め、  
正面が決まったら、つまんだり指を  
押しつけて耳や鼻を作り、  
目や口を竹串で描きます。



何もする気がないと見て見ていた人が、  
いつの間にか粘土を握っている  
一つ二つとできるにつれて話の輪が

釉薬をかけて  
本焼きも

このプロセスの中で、対象者の認知機能を  
含み回復状態をスクリーニングする  
作業を介した機能評価とりハレディネス

## 2000年～2009年の主な言語化の試み



## 2010年以降の主な言語化の試み



## 深めよう！ 広げよう！ 作業療法の技術

### 作業療法の技術

なにを深め なにを広げるか  
 今一度振り返ってみましょう  
 本当に求められている  
 作業療法をしているだろうか  
 できているだろうか  
 気がつかないまま  
 不幸な作業療法士になつていなかろうか



ひとはみな歳をとります  
 私もいろいろ  
 これまでのようには  
 できないことが  
 ふえていて  
 機能が低下しても  
 今暮らしている町で  
 安心して暮らせる  
 そのような国であつてほしいです

第16回WFOT大会ご講演で  
 皇后陛下が述べられたお言葉より

